

# 令和4年度 服薬適正化事業について



## 1 事業概要・目的

本事業は、所沢市医師会、所沢市薬剤師会、明治薬科大学、所沢市の4者による連携事業です。

令和4年度の事業では、令和2年度、令和3年度に引き続き、ポリファーマシーに重点を置いた、かかりつけ医・かかりつけ薬局の推進による服薬の適正化事業を実施しました。

具体的には、処方された内服薬について、服薬上の問題（多剤服薬に伴う有害事象発生、重複服薬、残薬発生等）が疑われる所沢市国民健康保険被保険者（以下「国保被保険者」という。）を対象に、以下2つの事業を実施しました。

### 【1】通知「服薬情報に関するお知らせ」等による周知啓発

- ・服薬情報を掲載した通知「服薬情報に関するお知らせ」を年4回、3ヶ月毎に選定した対象者へ送付し、対象者が通知を提示することで、相談しやすい環境を作る。
- ・事業の周知啓発ポスターを医療機関・薬局に掲示いただき、事業対象者や一般の方がポスターを見ることで、相談しやすい環境を作る。
- ・かかりつけ医・かかりつけ薬局から積極的に声掛けをすることで、より抵抗感無く相談しやすい環境を作る。

### 【2】お薬相談会（お薬相談事業）の開催

- ・事業対象者または国保被保険者及び市在住の埼玉県後期高齢者医療制度被保険者（以下「後期被保険者」という。）を対象にお薬相談会を開催し、多剤服薬や重複服薬、飲み残し薬など、正しい薬の飲み方について相談する機会を提供する。
- ・事業同意者にはヒアリングを行い、必要に応じてかかりつけ医・かかりつけ薬局で調整を行い、服薬適正化や医療費適正化を図る。

## 2 市や事業の人数等について

### ■ 対象者

事業開始時点である令和4年6月上旬の国保被保険者69,750人のうち、以下要件に該当する910人（1.3%）に対して、お薬相談事業案内通知等を送付しました。

#### □ 共通要件

- ① 20歳から74歳（令和5年3月末時点）までの国保被保険者
- ② かかりつけの医療機関・薬局が市内にある方  
※ 入院外の調剤レセプトのうち、内服薬に限る

#### □ 個別要件

- ① 多剤服薬：6種類以上の薬剤をひと月あたり14日以上服薬した月が、3ヶ月の間に2回以上
- ② 重複服薬：同一薬剤又は同様の効能・効果を持つ薬剤を2箇所以上の医療機関から処方された月が、3ヶ月の間に2回以上

### ■ お薬相談会参加者・事業同意者

令和4年8月20日、9月9日に、市役所8階大会議室にてお薬相談会兼血管年齢測定会を開催しました。参加者は34人で、そのうち多剤服薬該当者は31人でした。また、参加者のうち30人が事業に同意をされました。

### 3 効果検証

検証には、患者面談ヒアリングシートや各種アンケート等の資料を使用し、お薬相談会でのヒアリング状況やかかりつけ薬局での対応結果等の実態調査や、医療機関・薬局に対するポリファーマシーに関するアンケート調査を行いました。

患者面談ヒアリングシート等は所沢市薬剤師会で集計し、その後、市で集計データやレセプトデータを用いて事業の分析・検証を行いました。その後、明治薬科大学の専門的知見による助言を受け、事業の評価を行いました。

#### ■ 検証期間

- ・ 比較前：抽出期間（令和4年1月から3月）
- ・ 比較後：検証期間（令和4年9月から11月）

#### ■ 検証対象者

対象者910人のうち、下記除外者を除いた837人を検証対象者としました。

##### □ 除外要件

- ①検証期間終了時点である令和4年11月末時点での資格喪失者
- ②対象者の抽出から事業実施期間（令和4年1月から11月）に入院レセプトがある者

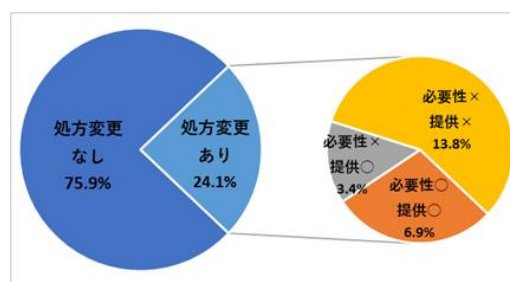
##### □ 各介入別の状況 \*<sup>1</sup>

		総計		多剤		重複		多剤・重複	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
検証対象	A	27人	3.0%	27人	3.0%	0人	0.0%	0人	0.0%
	B	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%
	C	810人	89.0%	775人	85.1%	29人	3.2%	6人	0.7%
	検証対象者計	837人	92.0%	802人	88.1%	29人	3.2%	6人	0.7%
対象外	資格喪失	25人	2.7%	23人	2.5%	1人	0.1%	1人	0.1%
	入院有	48人	5.3%	46人	5.1%	2人	0.2%	0人	0.0%
検証対象・対象外総計		910人	100.0%	871人	95.7%	32人	3.5%	7人	0.8%

#### ■ 検証内容

##### ① 患者面談ヒアリングシート等に係る検証

事業同意者30人のうち、最後までヒアリングを実施した29人を、検証対象者としました。お薬相談会時にヒアリングした結果として、処方変更等の必要性がある方が9人、そのうち情報提供に繋がった方は7人（全体では9人）、処方変更に繋がった方は2人（全体では7人）でした。



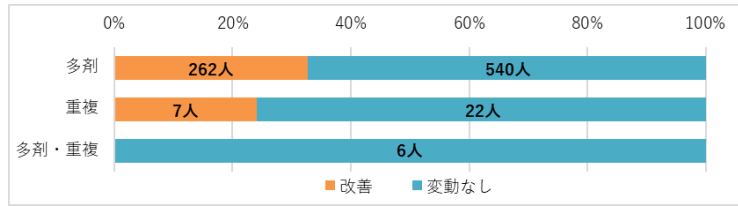
また、処方変更に繋がった方の中には、減薬や残薬調整された方もいました（服薬情報等提供料2や服用薬剤調整支援料2の加算も見受けられました）。

\*<sup>1</sup> 介入区分の表記は、「A」：通知実施、相談会参加、同意有り（情報提供実施）、「B」：通知実施、相談会参加、同意無し（情報提供未実施）、「C」：通知実施、相談会不参加、同意無し（情報提供未実施）、「検証対象外」：令和3年11月末時点で資格喪失している方や対象者の抽出期間及び事業の実施期間に入院レセプトの有る方、を表します。

## ② レセプトデータ等に係る検証

### 検証1：検証対象者の改善状況について検証 \*<sup>2</sup>

	人数	構成比
改善	269人	32.1%
変動なし	568人	67.9%
合計	837人	100.0%



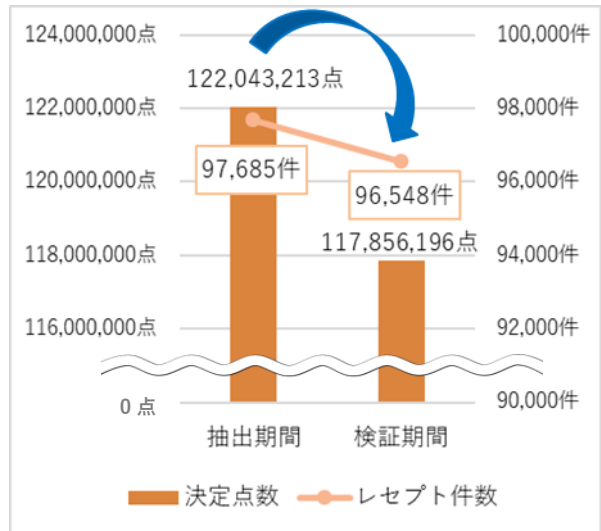
検証対象者837人のうち、32.1%（269人）の改善が見受けられました。

### 検証2：調剤レセプト件数・総点数の推移

#### □ 被保険者全体

処方年月		レセプト件数	レセプト総点数
抽出期間	R 4.1	31,487	38,468,919
	R 4.2	30,673	38,122,718
	R 4.3	35,525	45,451,576
	R 4.1-3計①	97,685	122,043,213
検証期間	R 4.9	32,427	41,047,026
	R 4.10	32,192	37,341,699
	R 4.11	31,929	39,467,471
	R 4.9-11計②	96,548	117,856,196
総計		194,233	239,899,409
差分 (②-①)		1,137	4,187,017
減少率		1.2%	3.4%

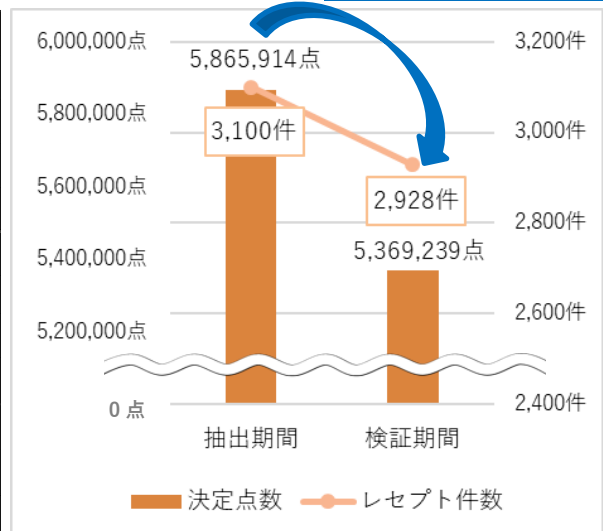
件数は1.2ポイント、  
点数は3.4ポイント減少



#### □ 検証対象者（837人）

処方年月		レセプト件数	レセプト総点数
抽出期間	R 4.1	1,095	2,165,136
	R 4.2	872	1,482,154
	R 4.3	1,133	2,218,624
	R 4.1-3計①	3,100	5,865,914
検証期間	R 4.9	1,000	1,901,992
	R 4.10	960	1,631,734
	R 4.11	968	1,835,513
	R 4.9-11計②	2,928	5,369,239
総計		6,028	11,235,153
差分 (②-①)		172	496,675
減少率		5.5%	8.5%

件数は5.5ポイント、  
点数は8.5ポイント減少



検証対象者のみならず、被保険者全体についても改善が見受けられました。また、被保険者全体以上に、検証対象者の改善が見受けられる結果となりました。

\*<sup>2</sup> 改善の定義について、多剤は、抽出期間と検証期間を比較して平均医薬品数が減少しており、かつ薬剤費が減少している方、重複は、検証期間に重複服薬が発生していない方としています。

### ③ 各種アンケートによる検証

#### □ お薬相談会参加者アンケート 回答率：100%（34人／34人）

- ・事業対象者のうち、お薬相談会に参加された方に対するアンケートです。
- ・令和3年度回収率は約97%（34人／35人）で、約3ポイント上昇しました。
- ・お薬相談会のアンケート集計結果では、参加者の多くが「参加して良かった」と回答され、中には定期的な開催を望まれる方もいました。
- ・参加に至った理由として「医師に相談できない」、「普段は先生が忙しそう」、「自分からは聞きづらい」という声が多くありました。

#### □ お薬相談会不参加者アンケート 回答率：約41%（350人／864人）

- ・事業対象者のうち、お薬相談会に参加されなかった方に対するアンケートです。
- ・令和4年度から、初めてアンケートを実施しました。
- ・通知を見て、医療機関や薬局に相談された方は、約51%でした。相談されなかった方については、「お薬の悩みがない」と回答された方が62%、「相談しづらい」と回答された方が8%、「その他（医師の処方や薬剤師を信頼している、薬の効果を実感している等）」と回答された方が約30%でした。
- ・ご意見の中には、「薬局など人の待っているところで話すのはイヤ」という回答もあり、気軽に相談できる環境（社会情勢の変動に伴い、個人情報の漏洩防止に配慮した環境）の整備も求められていることが分かりました。

#### □ 医療機関アンケート 回答率：約48%（82機関／172機関）

- ・事業の協力依頼を行った、医師会会員医療機関に対するアンケートです。
- ・令和3年度よりも、多くの医療機関にご回答いただきました（令和3年度：約37%（64機関（うち匿名2機関）／173機関）で約11ポイント上昇）。
- ・医師会会員医療機関のアンケート集計結果では、これまでの本事業の効果もあり「従来から意識していた」という声が多くありました。
- ・患者への声掛けについても、「声掛けを行った」の割合は、令和3年度が62.5%に対し、令和4年度は69.7%と、7.2ポイントも上昇しました。

#### □ 薬局アンケート 回答率：約76%（70薬局／92薬局）

- ・事業の協力依頼を行った、薬剤師会会員薬局に対するアンケートです。
- ・令和3年度よりも、多くの薬局にご回答いただきました（令和3年度：約63%（58薬局（うち匿名2薬局）／92薬局）で約13ポイント上昇）。
- ・薬剤師会会員薬局のアンケート集計結果では、医療機関アンケート同様、これまでの本事業の効果もあり「従来から意識していた」という声が多くありました。
- ・患者への声掛けについても、「声掛けを行った」の割合は、令和3年度が70.7%に対し、令和4年度は76.6%と、5.4ポイントも上昇しました。

#### □ 薬剤師会非会員薬局アンケート 回答率：約57%（4薬局／7薬局）

- ・事業同意者がかかりつけ薬局として指定したことにより、事業の協力依頼を行った、薬剤師会非会員薬局に対するアンケートです。
- ・令和4年度から、初めてアンケートを実施しました。  
薬剤師会非会員薬局のアンケート集計結果では、回答された全ての薬局より、本事業が「日々の業務の役に立った」という回答をいただきました。
- ・本事業をきっかけに「より深い話を出来るようになった」という声もありました。

## 4 検証結果・まとめ

### ■ 令和4年度事業・今後について

事業全体の検証結果は以下のとおりです。

参考資料	検証結果
①患者面談ヒアリングシート ②お薬相談会参加者アンケート ③お薬相談会不参加者アンケート ④通知「服薬情報に関するお知らせ」	<p>処方変更の必要性有無に限らず、悩み等を医師や薬剤師に話せていない方が多い。また、お薬相談会を機に処方変更につながった方も多数いた。普段は相談しづらい方も多いことが分かったので、「お薬相談会」という場の必要性を再認識した。しかし、お薬相談会の開催回数や参加者数にも限りがあるので、引き続き、医療機関や薬局等の協力が必要であることが確認できた。</p> <p>また、本事業をきっかけに医師や薬剤師に相談したという方も一定数いたため、通知「服薬情報に関するお知らせ」を発送することで、患者本人の意識や管理能力等の向上についても効果があった。</p> <p>一方、重複服薬該当者の多くは、複数の医療機関に同一症状で受診し、必要以上に薬を貰っていた。通知を送付することで、対象者本人が危機感を感じ、重複服薬等を控えることもあるが、今後も継続して、必要以上に受診する者についての対応も必要であることが確認できた。</p>
①レセプトデータ	<p>検証対象者のうち、改善したと思われる者*<sup>3</sup>は約32%だった。また、レセプト件数やレセプト総点数について、市被保険者全体の改善が見受けられたが、それ以上に、検証対象者の改善が見受けられる結果となった。</p>
①医師会会員医療機関アンケート ②薬剤師会会員アンケート ③薬剤師会非会員アンケート ④通知「服薬情報に関するお知らせ」	<p>医療機関・薬局共に「従来から意識していた」という回答や、事業期間の声掛けについても「普段どおりに声掛けを行った」という回答も多く、令和2年度開始以降、本事業を継続して実施したことにより、医療機関や薬局の意識向上等が分かる結果となった。</p> <p>一方、重複服薬該当者の服薬状況を確認すると、重複服薬の要因となった同一薬効の薬剤について、複数の医療機関の処方箋を1薬局で調剤しているケース等が見受けられた。よって、意識の向上のみならず、医療機関や薬局での運用体制についても検討いただく必要があることも確認できた。</p>

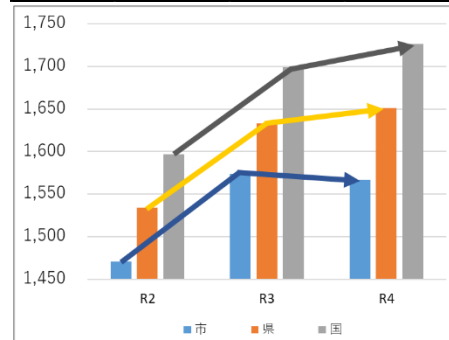
また、本事業を開始してからの3年間について、医科（外来）の1人当たり医療費点数を市・県・国別に確認すると、例年上昇傾向にあります。令和4年度に係る市（被保険者）については、減少傾向にあることが分かりました（令和5年3月2日時点）。

以上の結果より、本事業を実施することにより、被保険者等の健康増進や、かかりつけ医・かかりつけ薬局の推進に寄与したと考えられます。

また、今後もポリファーマシーに重点を置いた事業を実施する中で、必要以上に重複服薬等をする者に対する対応方法等の課題等については、健康増進連携推進協議会での検討を通して、市民の健康増進と健康寿命の延伸を図っていきます。

□ 医科（外来）の1人当たり医療費点数

	市	県	国
R2	1,471	1,534	1,597
R3	1,574	1,633	1,699
R4	1,567	1,651	1,726
平均	1,537	1,606	1,674



※ 出典：国保データベース（KDB）システム  
※ 令和4年度は令和5年3月2日時点の情報

\*<sup>3</sup> 改善の定義について、多剤は、抽出期間と検証期間を比較して平均医薬品数が減少しており、かつ薬剤費が減少している方、重複は、検証期間に重複服薬が発生していない方としております。